

”アクティブ・サタデー”の12月16日(土)、今年最後の学校行事が行われました。高校は、クラスマッチ(卓球、バレーボール)、中学校は、「KPC」(Kyoso Presentation Contest)が行われました。2学期末試験を終えての行事ということで、体育館では高校生の歓声が響き渡り、協創ホールでは真剣な眼差しで中学生がプレゼンテーションに聞き入っていました。

特に中学校の「KPC」は、各クラスの代表の生徒が「日本語部門」と「外国語部門」で発表し、金賞めざして頑張りました。また、ゲストスピーチとして、高校1年生の孫さん、留学生(スイスから)のミアさん、広島修道大学の留学生(中国から)の金さん、3人のスピーチも行われました。

以下、「KPC」について触れてみました。

(右は、「KPC」での一場面。生徒のプレゼンテーション)



「グローバル・イノベーション・リーダー」をめざす

「一人ひとりの体験や想いを適切に表現し合い、伝え合う力、他者を理解する力を高める。また、自分らしさを表現することによって社会生活を充実させ、人間性を豊かにする態度を養う」というのがKPCの目的です。

「日本語部門」は、1年生が「身近な問題から考える」、2年生は「将来に向けて思うこと」、3年生は「社会について考えること」が発表の内容でした。具体的なタイトルは、1年生が「日本の食糧不足」、「歩きスマホ」、「メリットとデメリット」の3つ。2年生が「小説への想い」、「私のWill」、「睡眠不足が及ぼすもの」の3つ。3年生は『甲子園』から考えた部活動の規律、「理想の校則」、「児童虐待」の3つでした。

「外国語部門」(自由英作文)では、タイトルではなく要約になりますが、1年生が「協創中学校に入学して出会えたこと」、「今できることの積み重ねを大切に」の2つ。2年生が「平和のためにすべきこと」、「識字率問題から世界に目を向ける意味」の2つ。3年生は「海外研修旅行で学んだこと」、「シンガポールの水事情」、「空手の醍醐味」の3つが発表されました。

多種多様な発表における本校中学生の豊かな想像力と創造力に圧倒され、審査する私の心を大いに揺さぶってくれました。世界の問題に目を向ける生徒、身近な問題を取り上げる生徒、自分の将来に向けて必要なことは何かと問いかける生徒、まさしく「グローバル・イノベーション・リーダー」にならんとする逸材が育っているように思えてなりませんでした。

「日本語部門」の金賞は、2年生の「私のWill」でした。「私のWillは健康寿命を延ばすことです」と宣言をしたのち、日本の平均寿命のこと、厚生労働省の健康寿命延伸プランなども紹介しながら健康の大切さを指摘します。しかし、身体の健

康と心の健康の双方が大切であることを捉え、むしろ心の健康を重視すべきだと力説します。人は一人では生きていけないのだから、他者への感謝の気持ちを忘れず、何事にも挑戦することが大切だと結びました。

「外国語部門」(自由作文)の金賞は2人。同点でした。「平和のためにすべきこと」の生徒は、ウクライナ・ゼレンスキー大統領が来広したときの演説で述べた、5つの平和メッセージを取り上げ、平和な世界に向けて他人事ではなく自分事として捉えることが大切であると訴え、一人ひとりが意識を変え、「少しずつ平和になっていけばいいなと思います」と結びました。

もう一人は「識字率問題から世界に目を向ける意味」。生徒は「あなたは読み書きができない生活を想像できますか」と語り始めます。特にアフリカでは、女子は家事をするという認識があるため、読み書きの能力が不要だと考え、十分な教育を受けられず貧困を避けられない状況にあることを説明します。そして、この状況に手を差し伸べるべきではないか、「いつか必ず、自分にその恩が返ってくると信じているから」と。

内容も発表態度も素晴らしかったです。審査結果を発表し、次のような総評を述べました。

「たくさんの人の前でプレゼンテーションをするという機会を大切にしたい。いや、敢えて挑戦してほしい。尻込みしてはだめです。こうした機会は、自分を高める絶好の手段の一つなのです。そのためには、「ふだん」を意識してください。

「普段」、いろいろなところにアンテナを張って、何に興味があるか探ってください。そして、それが見つかったら、「不断」の努力を惜しまないようにすることです」と。

「グローバル・イノベーション・リーダー」、間違いなく育っている気配がします。